

夜間宿所利用者が、2011年度若干増加しているが・・・

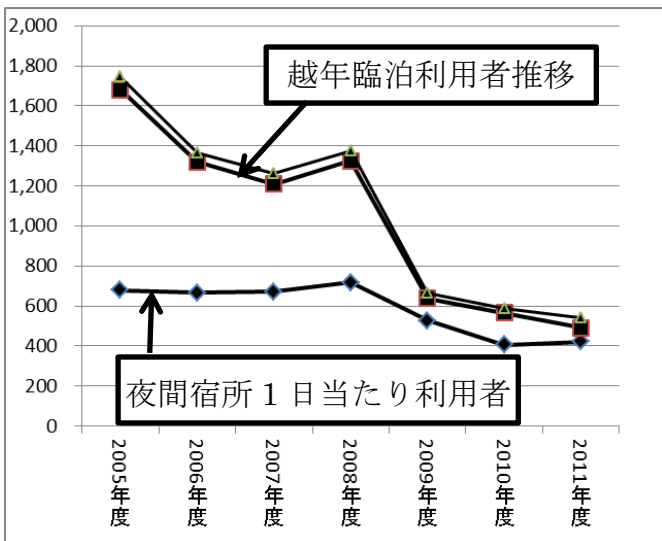
さて、輪番の就労数も減少するという今年の先行きは・・・

## 「輪番十夜間宿所十炊き出し」の三点セットから本腰入れて転出を！

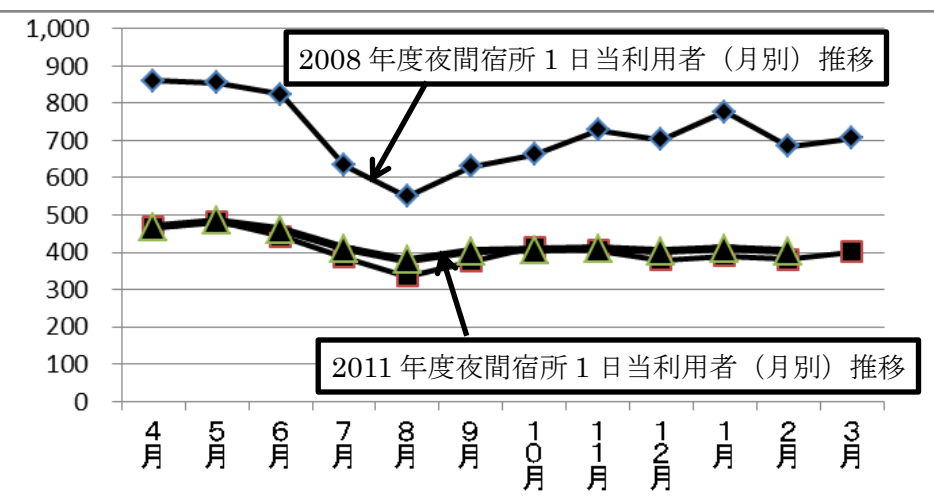
左のグラフは、越年臨泊の利用者の推移と夜間宿所の一日当たり利用者の推移です。夜間宿所の方は、一年間の平均です。(「年度」は、この場合、4月から翌年3月末までです。)

2005(平成17)年から7年間の数字があります。越年臨泊の方は、2008年に一旦利用者が増えましたが、その翌年に急減し、その後も減少が続いていることがわかります。

減少の理由が、利用したかったけれど却下された人が多くなったからではなく、相談者(利用の申し込み)数の減少によることは、相談者数も同じように減



年度	越年臨泊	
	1日平均	相談数
2005年度	679	1,745
2006年度	666	1,363
2007年度	671	1,260
2008年度	718	1,375
2009年度	527	666
2010年度	405	590
2011年度	422	540



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2008年度	860	855	825	633	551	630	662	727	702	777	685	706
2010年度	467	483	443	387	335	376	413	404	380	391	382	401
2011年度	468	485	461	411	380	403	407	410	403	411	403	

越年臨泊の利用者は、2008年度から大きく減少しています。夜間宿所の一日当たり利用者も、2008年と昨年度、一昨年度を比べると、300人程度少なくなっていることがわかります。今年の3月はまだ終わっていないので空欄。

2008年と最近を比べると、一日当たり利用者が大きく減少していることが一目で分かりますし、グラフの山が平坦になっていともわかります。

このことは、生活保護制度を活用する人は生活保護申請して夜間宿所利用からアパート・マンション生活に転身し、何らかの理由で生活保護申請しない人が夜間宿所利用者として固定している事のあらわれであると考えられます。

今年の3月分の数字はまだ計算に入っていませんが、去年度と比べると、若干、一日当たり利用者が増加していることがわかります。年平均で言うと、一日当たり17人ですが、気になる傾向ではありません。新しく夜間宿所利用者として加わった人、あるいは、生活保護を受けていた人が何らかの理由で再び夜間宿所利用に戻った、その二つが考えられます。(極少ですが、生活保護を受けながら、時々、夜間宿所を利用している人もいます。)

4月からは、特掃の就労日数も減少します。最近は、「4月になったら生活保護やな」の声を聞くようになりました。70、80になっても特掃で働きたいなどオコの沙汰です。50代の人に仕事を回すことも考えなくては・・・。  
生活保護活用で夜間宿所の廃止を！

## 市更相は釜ヶ崎（あいりん地域）の福祉相談窓口です。

夜間宿所利用・炊き出し利用、センター周辺や公園での野宿・仮小屋生活から、アパート生活へ！

市立更生相談所（市更相）は、釜ヶ崎（あいりん地域）内の簡宿利用者、夜間宿所利用者、そして、地区内で野宿する人を担当する福祉の相談窓口です。

役所は管轄（縄張り）にこだわりますから、市更相の窓口で「天王寺公園で寝ていた」というと、「天王寺区役所で相談して下さい」といわれます。「鶴見橋商店街で寝ていた」というと、「西成区役所へ行って下さい」といわれます。

この点、相談に行く前に、しっかり確認しておいて下さい。

最低でも、相談に行く前の晩は、夜間宿所かセンター周辺あるいは山王・太子など市更相周辺で寝泊まりしていたことが必要です。地区内の簡宿に止まっている人が、わざわざ野宿していく必要はありません。

### 1) 医療相談

体の調子の悪い人は、医者を紹介してもらえます。大概は医療センターです。

### 2) 施設相談

2～3日、三食風呂付きで体の調子を整えたい人は、三徳寮の生活ケアセンターの利用を相談してみてください。

2～3日でなく、長期に施設に入って、体力の回復や過度の飲酒やギャンブル依存などの悪い生活習慣を改善したい人は、長期の寮（生活保護施設）への入所を相談しましょう。生活保護の中の施設保護です。

### 3) 居宅確保相談

住居のない人が、アパートやマンションを借りて、生活保護の中の居宅保護を申請することができます。この場合は、

医療相談でも施設の相談でもなく、居宅保護の相談であることをはっきり、職員に伝える必要があります。